

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 名和賢美	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>2014年度に最も力を注いだのは、昨年度に引き続き、「市民教育という観点からの、論理的表現力・批判的思考力育成プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する事業の概要および教育研究の成果は、以下の通りである。</p> <p>(1) 初等中等教育での教育研究</p> <p>① 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1学年全員への作文指導(5月30日) 附属高1年生が高経大見学時に、「論理的な文章の書き方：言いたいことを分かりやすく伝える基本の型」という講義を実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎についての理解促進を図った。附属高スーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。</p> <p>② 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1学年オナークラスへの「経大生による作文指導講座」の開催(1月13日、20日) 自らが担当する「社会学Ⅰ」・「社会思想史Ⅰ・Ⅱ」を履修して高い論理的表現力を身につけた高経大生が、附属高1年オナークラス生徒に少人数制で型作文を指導するという企画であり、今年で4回目の実施。大学生15名のきめ細やかな指導により、生徒70名の論理的表現力を大幅に高める一助となる。附属高スーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。</p> <p>③ 群馬県立吉井高等学校3学年全員への作文指導(8月21日) 出前授業として、「論理的な文章の書き方：言いたいことを分かりやすく伝える基本の型」という講義を実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎についての理解促進を図った。</p> <p>④ 群馬県立吉井高等学校3学年希望者への「経大生による作文指導講座」の開催(9月4日、11日、18日) 上記②と同内容の企画。大学生2名のきめ細やかな指導により、生徒7名の論理的表現力を大幅に高める一助となる。</p> <p>⑤ 高崎市立北部小学校6年生全員への作文指導(10月15日) 地域貢献も兼ねて、児童42名を校区内の高経大に招待し、「読みやすい文章の書き方：苦手な作文攻略法」という講義を実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎についての理解促進を図ると同時に、当日はキャンパス見学も行い、大学の雰囲気を見学が体感する機会にもなった。</p> <p>⑥ 岩手県釜石市立鶴住居小学校希望者への作文教室の開催(3月14日) 「三陸ひとつなぎ自然学校」とのコラボ企画。被災児童への学習支援も兼ねて、釜石市での出張作文教室を実施。自らが「苦手な作文の攻略法：読みやすい文章の書き方」という講義を行った後で、大学生4名によるきめ細やかな個別指導を行った結果、小2から小5の児童5名の論理的表現力を大幅に高める一助となる。</p>	

(2) 高等教育での教育研究

① 経済学部教養教育委員会日本語部会の部会長 (通年)

経済学部では2014年度より、1年次生全員の批判的思考・論理的表現の汎用力の育成を目指す導入科目として、日本語リテラシー科目を新設開講したが、本科目の授業内容の検討や担当者の選定などを逐条審議する部会を主宰。なお、今回の導入教育科目新設に関しては、以下の発表の機会もあった。

- ◇ 「経済学部における『日本語リテラシー I』について：学生が成長を実感できるプログラムの追究」、高崎経済大学全学FD・SD研修会 2014年度第3回 (2014年7月2日)
- ◇ 「汎用性高い作文指導の試み：成長を実感できる指導法の追究」、群馬県立吉井高等学校職員研修 (2014年8月21日、於吉井高校)

② 平成26年度高崎経済大学研究奨励費「初年次必修科目における標準化教材の開発」の研究代表者 (6月11日～3月31日)

上述した日本語リテラシー科目の初年度に担当者が使用した指導要領をもとに、より完成度の高い標準化教材を作成することを主目的とした共同研究。研究代表者として、以下の2点を編集した。

- ・『「日本語リテラシー I」2014年度版担当者指導要領』(2014年9月)
- ・『日本語リテラシーと初年次教育』(2015年3月)

なお、後者では本科目の詳細に関する以下の論文を執筆した。

『日本語リテラシー I』の授業設計：学生が成長できる初年次教育を求めて

(3) 科学研究費基盤研究(B)「ポスト3・11的危機から見る<理性><欲求><市民社会>の再審」の研究分担者 (通年)

「民主主義と日本社会への視座」班のメンバーとして、研究会に参加して課題に関する理解を深めた上で、以下の論文を執筆した。

「型作文から始まる市民教育プログラム構築への挑戦：イソクラテスの弁論術教育法に後押しされて」平子友長・鈴木宗徳ほか編『危機に対峙する思考』梓書房、(現在編集中)。

(4) 日本政治学会年報2016-I号編集委員会の編集委員 (12月～)

「政治と教育」を特集テーマとする『年報政治学』の編集委員として、研究会に定期的に参加し、テーマへの理解を深めると同時に自らの執筆内容を検討した。

2 その他の事項

(1) 第12回21世紀ぐんま教育賞選考委員会「杉の子賞(教職員の部)」選考委員 (11月下旬～12月)

教育向上のために日ごろ実践・研究していることをテーマとする公募論文について、選考対象論文を評価・採点した上で、選考委員会の場で各賞決定の審議に携わった。

3 次年度以降の計画・抱負

前年度と同一テーマが、最重要課題となる。具体的には、以下の通りである。

まず、初等中等教育での教育研究では、附属高との高大連携事業を継続。小学生への指導も継続実現をめざす。次に、高等教育での教育研究では、部会長を継続し2年目を迎える日本語リテラシー科目の充実に努める。さらに、年報編集委員としては、論理的表現力育成に関する調査研究をさらに進め、論文にまとめ上げる予定。